



令和4年10月1日に披露された新しい制服

現在の制服（写真右）は、昭和44年から続いてきた

写真右から 神谷愛依さん、藤井侖さん、小嶋大翔さん、筒塩舞季さん、山本心暖さん



生徒会3年生の皆さん

アンケート後、先生と保護者の皆さんが、新しい制服について本格的に話し合うことが決まりました。自分たちの活動がきっかけになったと知り、うれしかったです。

一人ひとりの個性を大切にしようと思ふので、自分好みの制服を着て、自信を持って、学校生活を楽しんでください。

アンケートでは、今の制服で困っていることはないという回答の人がいる一方、学生服の首のホックがきつい、セーラー服が着にくいなど、不便さを感じている人が3分の1いました。「誰でもはけるズボン（スラックス）があったら履きたいか」という問いには半数以上が「はい」と答えました。ここから、誰でもズボンが履けるよう、校則が変わりました。

制服に続き、生活委員や先生と協力し、校則のアンケートを行いました。この結果、式典で履く靴下の色、制服の下に着る下着の色を決まりが変わりました。決まりを変えることは簡単ではないけれど、みんなが生活しやすい学校にしたいという気持ちが大切です。

※勝北中学校でも令和5年度から制服が変わります。2月号の「津山自慢」で紹介します

新春座談会で写真を撮りました。90分の撮影で、枚数は500枚超え。出席者の一番良い表情を撮ろうと必死でシャッターを切っていると、あっという間に時間が過ぎました。撮影後は緊張もあってグツツリ。写真を見返していると、良い表情の写真が数枚あり、達成感と満足感が疲れが吹き飛びました。(二)

久米中学校で披露された新しい制服は、ブレザーを含め、洗濯できる生地、着心地が良さそうです。変わることを寂しく感じる卒業生もいるかもしれませんが、今の制服の象徴「緑色」を大切に引き継ぎ、一人ひとりの個性を大切にしようとしたそうです。新しい歴史の幕開けを温かく応援したいです。(一)

津山の人・物・技術
など、明日誰かに自慢
したくなる津山のいい
ところを紹介します

ええとこ
いっぱい

津山

つやまじまん

25

性
多
様
性
の
学
習
が
出
発
点

アンケートが新しい制服のきっかけに 久米中学校生徒会（3年生）

久米中学校では、生徒・保護者・学校が、性の多様性 L G B T Q について学ぶ中で、制服について検討し、令和5年度から「男女の区別なく着ることができる新しい制服」に変えていくことになりました。きっかけの一つになった生徒会の皆さんの活動や思いを聞きました。

自身の経験を踏まえ、L G B T Q について講演している、津山市出身の竹内清文さんの話を聞きました。性の多様性について悩み、苦しんでいる人が、思っていた以上にたくさんいることを知りました。学校の中にも、居心地の悪さを感じている人が一人でもいるなら、悩みを解決し、みんなが過ごしやすいようにしたいと思いました。まず、男女の区別がある制服について、アンケートをしました。

ブレザーは紺で統一。ズボンとスカートは、グレーのチェック・グレー・緑のチェックの3種類に絞られました。生徒全員と保護者の皆さんの投票の結果、緑のチェックに決まりました。久米中学校のセーラー服の象徴「リボンの緑色」を、新しい制服に引き継ぐことができ、うれしかったです。

文化祭「高德祭」で、生徒会の4人が新しい制服を着て、生徒全員にお披露目しました。ポロシャツは透けにくく、ブレザーなども着やすく、動きやすい素材で「かわいい」「着てみたい」とみんなにも好評でした。



0868-32-2029
0868-32-2152
kouhou@city.tsuyama.lip

広報津山は、環境保護のため再生紙・植物性インキを使用しています。読者のためにも、紙の裏面に「リサイクルマーク」を貼っています。



津山市公式
フェイスブック



津山市公式
LINE



津山市公式
インスタグラム

